



土作りで育むもの

園長 眞家 順子

ようやく秋の穏やかな日差しを感じる日が増えてきました。

園庭で体を動かすことが心地よくなる中、子どもたちは秋蒔きの野菜や花の種、苗を植えました。蒔く前に春蒔きの野菜を抜き、腐葉土やリサイクル材を混ぜ、やせた土に栄養を与える土作りをしました。年少児は教師が土作りをしたのを、プランターに入れ替えることで土に触れました。年中児や年長児は、春蒔きの野菜を抜き、土に残っている根っこを取り除き、硬くなった土に腐葉土やリサイクル材を混ぜ合わせることで、「フカフカ」と表現される柔らかい感触の土に再生させていました。

育て終わった野菜を抜くのも、根が張っているので簡単には抜けません。ただ引っ張っても抜けないことから、引き抜く根元の土を掘り、柔らかくすると抜きやすくなることに気が付きました。野菜を抜くと、長い根っこに「長ーい！！」と驚く声。土の中からは虫も出てきて、昆虫好きな子は虫の動きにくぎ付けです。

土作りの活動の中で、子どもたちは多くのことを感じ考えています。土の匂い、植物を植える前の、柔らかい土の感触、しかし成長後に世話をしなくなった土は硬くなること。小さかった種や苗が大きく育った後には、土の中で長い根を伸ばし、土から抜きにくくなること、取り除いても土の中から根っこの端が出続てくること。土の中で生きている虫がいること。そして、野菜を育てるための土作りには、多くの工程があり、土をプランターに入れるのは、たくさんの力が必要なことを、身をもって感じています。



「自然は人間の苗床」といわれることもあるように、自然との触れ合う機会を大切にすることによって、子どもたちの視覚・聴覚・触覚・味覚・嗅覚という五感を刺激し、瑞々しい感受性や感性を育んでいます。そして、その感受性は他者との関係や洞察力につながり、生きる力・コミュニケーション能力・人間関係力を高めていく力の素地になっていく意義を踏まえ、土作りや栽培活動を大切にしていきたいと思っています。



- ・身近な自然物や園庭の草花を使って、繰り返し遊ぶことを楽しむ。
- ・同じ場で遊ぶ友達や近くにいる友達に、自分の思いを動きや言葉で表そうとする。

今月の学年目標

- ・身近な素材や自然物を使って遊び、様々な表現を楽しむ。
- ・友達と一緒に遊ぶ中で、自分の思いを伝えたり相手の言葉を聞こうとしたりする。

- ・遊びの中で試したり工夫したりしながら、自分の力を発揮し実現する喜びを味わう。
- ・グループや学級の友達と相談しながら、共通の目的に向かって力を合わせやりとげた満足感を味わう。

